

特別展

中世庶民信仰の絵画

参詣曼荼羅・地獄絵・お伽草子



六道絵・第二幅（出光美術館蔵）

● 展示替え予定（前期 9月29日～10月11日 / 中期 10月14日～31日 / 後期 11月2日～14日）

平成5年9月29日水～11月14日日

開館時間：午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

休館日：10月4日（月）、12日（火）、13日（水）、18日（月）、25日（月）／11月1日（月）、4日（木）、8日（日）
入館料：一般200円（160円）／小中学生100円（80円）※内は20名以上の団体料金

渋谷区立松濤美術館

さんけい まんだら じごく え とぎぞう し
— 参詣曼荼羅・地獄絵・お伽草子 —

室町時代から安土桃山時代にかけての中世後期は、宗教が庶民の間に広くいきわたった時代です。この時代の宗教絵画には、そうした時代の要請を受けて、絵解きなどの方法で庶民を信仰に導く目的で描かれたものが多く見られます。画風の面でも、それまでの仏画の画一的な描写を乗り越えて、自由で素朴な表現の中に、庶民の熱い信仰心を感じさせる作例が目立っています。

特別展「中世庶民信仰の絵画」は、参詣曼荼羅・地獄絵・お伽草子絵巻の三本の柱で構成しています。「参詣曼荼羅」は中世後期から近世初期に集中して描かれたと考えられている作品群で、西国三十三所観音霊場に代表されるような多くの参詣者でにぎわう寺社の景観を、大画面に描きだしたものです。古代から描き継がれてきた「地獄絵」は、庶民の信仰にもっとも切実に関係するテーマですが、中世に至ると地藏菩薩などを画中に描き込んで、地獄からの救済を主張する作例が目立ち始めます。室町時代に始まる「お伽草子絵巻」には多様な作品が含まれており、物語の内容はもちろん、絵巻の画風も様々ですが、本展では本地物や出家遁世物などの宗教的色彩が濃いものに焦点を絞りました。

以上の作品群には、画技の心得のない素人の手になると思われるものさえ含まれており、その絵画表現は極めて素朴なものです。大胆な構図や色使いなど、美術作品としても現代の我々に訴えかける本質的な力を秘めているように思われます。本展では、重要文化財3件(13点)を含む50件(80点)あまりを展示して、この時代の民衆の宗教世界に触れてみたいと考えます。



富士参詣曼荼羅(富士山本宮浅間大社蔵)

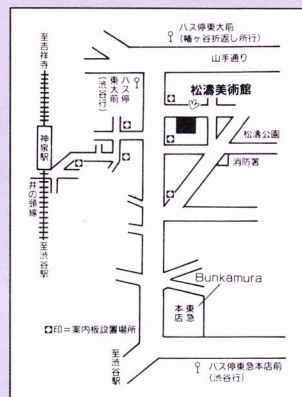


熊野の本地絵巻(東京大学国文学研究室蔵)

- 講演会 10月9日(土) 午後2時より
講師:宮 次男(実践女子大学教授)
「庶民の信仰と絵画」
- 10月30日(土) 午後2時より
講師:福原敏男(国立歴史民俗博物館助手)
「参詣曼荼羅の時代」

- 美術映画会(午後2時~3時)
10月10日(日)「伴大納言絵巻・鳥獣人物戯画・信貴山縁起絵巻」
11月7日(日)「厳島神社・熊野速玉大社・春日大社」

- 美術相談(午後2時~4時)
10月16日(土) 講師:磯村敏之(洋画)、畑農照雄(版画)
11月3日(水) 講師:西嶋俊親(洋画)、松島 靖(水彩画)



渋谷駅下車徒歩15分/神泉駅下車徒歩5分
東京都渋谷区松涛2-14-14/TEL.03(3465)9421/2-14-14, SHOTO, SHIBUYA-KU, TOKYO